



フォレストウインズ

Forest Winds もりからのかぜ・東北

No. 2 1999年3月

農林水産省・森林総合研究所・東北支所

苗床面を下げた ヒバの苗は伸びた

—ヒバの早期山出し育苗法—



青森県平内町にある上木がスギで下木がヒバの二段林・下木植栽6年目
(耐陰性の強いヒバの苗は複層林の下木植栽用としても引っ張りだこ)

ヒバ林の更新はこれまで主に天然更新によって行われています。ヒバの材質や成分が評価されるなか、最近では複層林造成用の下木植栽樹種としてヒバ苗の需要が多くなってきました。しかし、種子から育苗した場合には、山出しまで6年以上の期間を必要とし、生産単価もスギの10倍以上になってしまいます。またヒバは比較的発根が容易なため、サシ木から育苗することで山出しまでの期間を短かくできますが、萌芽枝の発生が少ないので1本の木から大量のサシ穂を採ることはできません。

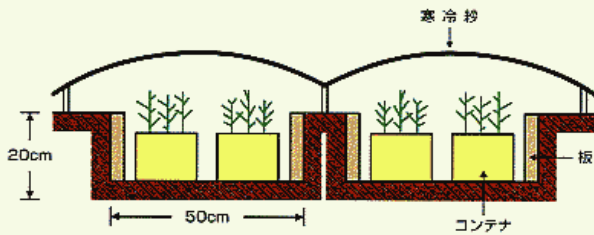
なかなか難しいヒバの育苗ですが、苗床の改良によって成長を促進する方法を開発しました。

苗床づくりの改良の

ポイント

ヒバはスギと混植させると良く伸びます。この性質を苗床に応用しました。

床面を深さ20cm、幅50cmに掘り下げた溝状の低床式の苗床を作り、側面からの光を遮断し上部からだけ光が入るようにします。(図)



光の調整

苗床は相対照度が30%程度になるよう寒冷紗で覆いました。下木植栽を目的にしているため、日覆いは通年で外しません。(写真1)

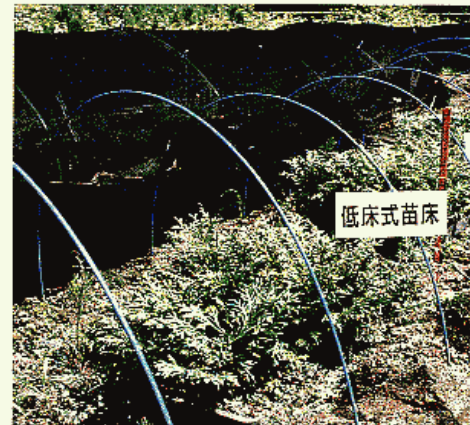


写真1

ヒバ苗の成長

播種1年後のヒバ苗をコンテナに移植し、これを低床式苗床の溝に据え置きました。3年目には平均苗高が12.9cmとなり、比較対照の高床式(床面が10cm高い)での平均苗高11.3cmより14%も大きくなりました(写真2)。根の発達も良く(写真3)、10月まで成長するという特徴が見られました。



写真2



写真3

ヒバの育苗はスギと違い大変難しいところがあります。種子の上に覆土をすると発芽率が落ちます。浅根性のため凍上の被害も受けます。コンテナを使った養苗法を基本にして、溝の深さ、日覆い、施肥などの改良で、4年生で山出し(目標苗高30cm)できるようにさらに研究を進めています。

制作：森林総合研究所・東北支所・育林部・更新技術研究室 糸屋吉彦
連絡調整室 下田直義

お問い合わせ：森林総合研究所・東北支所 〒020-0123 盛岡市下厨川字鍋屋敷72

Tel : 019-641-2150 Fax : 019-641-6747